

## 資料に親しむ会 令和5年度第5回

### 「古天文学と『明月記』の記録」

京都府立京都学・歴彩館職員が「古天文学と『明月記』の記録」を、下記のとおり開催しました。

#### 記

■ 日 時 令和5年9月5日（火）午後2時30分～3時30分

■ 場 所 京都府立京都学・歴彩館1階 小ホール

■ 参加者数 78名

■ 内 容 前半は、古代国家の天文事業を踏まえ、陰陽寮の職務の基盤となった歴彩館所蔵の『石氏簿讚』を紹介した。後半は、藤原定家が『明月記』（歴彩館所蔵）に残した過去の天文記録を解説し、中世の京都で観測できた火球やオーロラなどの現象に触れた。  
その後、参加者の理解を深めるための体験として、天文シミュレーションソフトを用いて過去の天文現象と『明月記』の記録を照合した。

#### ■ 参加いただいた方々のご意見 （参加者アンケートより）

- ・古典で天文現象を調べるというテーマが新鮮で、面白かった。
- ・『石氏簿讚』を初めて知ることができた。
- ・『明月記』に超新星爆発やオーロラの記録があることは知っていたが、実際の文章に即してよく理解できた。藤原定家が経験した天文現象の的確な描写に驚いた。
- ・国家事業として古代では天文観察があったことが興味深い。
- ・平安時代からしっかりした天文観測が行われていることに驚いた。
- ・天文シミュレーションソフトで過去の星の様子が分かり、実際に共感できたことが面白かった。
- ・800～1000年前の空と現在の空がつながっていることに感動した。

（講座の様子）

